

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	中原区第3グループ(平間・玉川・西加瀬)	評価対象年度	平成24年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	子ども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	中原区子ども支援室

2. 事業実績

利用実績	1 平間子ども文化センター ① 年間延べ利用者数 34,418人 ② 年間延べ利用団体数 557団体
	2 平間小学校わくわくプラザ ① 登録者数 193人 ② 年間延べ利用者数 10,827人
利用実績	3 下河原小学校わくわくプラザ ① 登録者数 130人 ② 年間延べ利用者数 7,456人
	1 玉川子ども文化センター ① 年間延べ利用者数 39,061人 ② 年間延べ利用団体数 419団体
利用実績	2 玉川小学校わくわくプラザ ① 登録者数 308人 ② 年間延べ利用者数 18,616人
	3 下沼部小学校わくわくプラザ ① 登録者数 334人 ② 年間延べ利用者数 20,624人
利用実績	1 西加瀬子ども文化センター ① 年間延べ利用者数 25,506人 ② 年間延べ利用団体数 353団体
	2 荻宿小学校わくわくプラザ ① 登録者数 219人 ② 年間延べ利用者数 13,465人
利用実績	3 木月小学校わくわくプラザ ① 登録者数 178人 ② 年間延べ利用者数 10,243人
	収支実績
サービス向上の取組	子ども運営会議、保護者懇談会、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、活動や運営に反映。グループ単位のスケールメリットを活かした交流行事・事業の実施

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、子ども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		子ども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
(評価の理由) 特色のある行事としては、子供たちが自ら企画した「飛行機整備工場」体験学習会を実施した。また、中学生が自ら企画した「ゲームスタンプラリー」では中学生が中心となって運営、乳幼児から小学生まで楽しむことができ、中学生自身も異年齢の交流を通じてボランティアの大切さを自覚することができた。今日的な課題となっている食育の大切さを踏まえ地域のボランティアの協力を得て「たのしいおひるクッキング」を実施し、食に対する関心と意欲の啓発を行った。地域で活動されている陶芸倶楽部の協力により陶芸体験教室を実施し、個性豊かな作品を作ることができた。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費縮減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
支出に見合う効果が得られているか					
(評価の理由) 消耗品の一括購入、業務委託の一括契約、ペーパーレス化等により経費の節減を図った。金銭管理・会計手続についても適切に行われ、概ね提案どおりの経費執行であった。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	3	3
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	子ども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8
<p>(評価の理由) 地域に密着した事業の推進を図るために子ども文化センター運営協議会や保護者と連携を図るために保護者懇談会などを定期的に開催した。また、児童の健全育成を推進するため、学校、行政、地域等と連携を図りながら事業を実施した。近隣小・中学校及び町内会・関係機関等への広報誌の配布、かわさきFMでの放送、ホームページを活用し定期的に情報を更新しインターネット利用者への周知等、利用促進に努めた。さらに全施設の実践集を作成し、各施設の特徴的な活動を紹介した。館内に意見箱を設置するなどして児童・保護者・地域の方々の意見や要望を収集して事業運営に反映させた。スタッフ間の連絡ノートの活用により特別な支援を必要とする児童への的確な対応を行うことができた。プロジェクター・スクリーン・ワイヤレスアンプを購入し、行事に活用した。乳幼児ルームに意見を記入できる専用ノート設置し、利用者から要望や意見等を収集し、事業運営に反映させた。子ども達の意見を反映した館外研修を実施した。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		子ども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	3	6
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) 子ども文化センター及びわくわくプラザともに、提案どおり適正な職員配置がなされていた。またわくわくプラザ利用の障害児対応については適宜スタッフが配置されていた。市主催の研修への参加も多数あり、職員のスキルアップを図るため、財団、区、グループ、館ごとの研修を企画、概ね提案どおりの研修が実施された。現場で即活用できる研修をグループ内で実施するなど工夫が見られた。個人情報等の取扱いについては、情報漏えい及び紛失等の事実はなかった。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>(評価の理由) 利用者が安全に利用できるように安全点検マニュアルを作成して施設・設備の安全点検を実施し、必要に応じてまた迅速に修繕を行うなど環境整備に努めた。衛生管理については、危機管理マニュアルを作成し、引き続き利用者の安全確保に努めていた。また、防犯対策の取り組みとして、子供とともに安全マップを作成したり、近隣の学校・警察・等との連携を図るなどして防犯対策を強化した。さらに消防署の協力を得て普通救命講習を実施した。東日本大震災以降防災体制の強化のため、子ども文化センターには発電機と簡易トイレを、わくわくプラザには防災遮光カーテンと簡易トイレを整備した。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	65	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

指定管理者以前から委託事業者として子ども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、53施設の指定管理者としてのスケールメリットを活かし、全市規模、区規模の合同行事や職員研修、偏りのないサービスが提供できた。また、グループとしてのスケールメリットとしては、地域性を生かしたグループ合同行事や事業を展開できている。

消耗品や備品の購入等もスケールメリットを活かし、備品の整備・充実を推進するとともに、特に東日本大震災以降、防災体制の強化のために施設の整備や備蓄等を積極的に取り組んでいることは評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、子ども文化センターの利用者が利用しやすい環境の整備に努め、児童が安全で安心して過ごせるわくわくプラザの運営に努めるよう期待する。